

2017年度大学院経営学研究科経営史演習の打ち合わせ

1.今年度の演習の持ち方について

(シラバスより)

「本演習では、現在および将来の企業経営のあり方を模索するために、過去の企業経営の事例を研究します。その際、以下の点に留意します。第1に、「経営史」のうちの「歴史」について検討します。ここで問われる「歴史」とは、年表のような編年史ではありません。提示者の意図のもとに構成された「歴史的事実」＝ストーリーをもった物語です。そうしたストーリーをもった物語、「歴史的事実」をどのようにして作るのか、どのような歴史的必然性があるのかを考えていきます。最近、グローバル・ヒストリーなるもの、地域史に対する関心が高まっています。こうした歴史学の現状にも留意します。第2に、企業経営をめぐる社会的な環境にも留意します。企業経営はそれ自体が単独に存在するわけではありません。企業を取り巻く社会的な環境に影響されるからです。以上のうえで、第3に、「経営史」のうちの「企業経営」について検討します。特に、革新的とされた経営行動を意識します。特に、「モノづくり」の面に留意します。

今年度も、これまでと同様に優れた経営史（経済史も含みます）に関する古典，方法に関わる議論も取り上げて検討するとともに、現在の企業経営の動向を知るため、経営戦略に関する研究も取り上げて議論します。」

2.輪読対象の文献と担当者の決定

文献の報告としては、すべて内容を網羅するのではなく、取り上げる箇所を絞り、ポイントを絞ってレジュメを作成して報告すること。

(事前にどの箇所を、つまりどの章を読めばいいのかをお伝えください)

月	日	曜日	時限	授業科目名	回数	司会者	報告者	備考・文献
4	10	月	2	大学院経営史	1	-	-	ガイダンス
4	24	月	2	大学院経営史	2	中瀬		酒井(2006)
5	8	月	2	大学院経営史	3		花木	島村(2013)
5	22	月	2	大学院経営史	4		白浜	森本(2015)
6	5	月	2	大学院経営史	5		中瀬	沢井・谷本(2016)
6	19	月	2	大学院経営史	6		植田	未定
-	-	-	-	大学院経営史	-	-	-	株式会社寺内製作所様への見学, ヒアリング
7	3	月	2	大学院経営史	7		ヨウ	未定

3.参考文献

次回の文献

酒井邦嘉（2006）『科学者という仕事 - 独創性はどのように生まれるか - 』中公新書

①歴史の方法

沢井実・谷本雅之（2016）『日本経済史』有斐閣

②日本の企業経営をめぐって

加護野忠男・山田幸三（2016）『日本のビジネスシステム』有斐閣

③海外の政治，経済の動向について

森本あんり（2015）『反知性主義 - アメリカが生んだ「熱病」の正体 - 』新潮選書

加藤弘之・梶谷懐（2016）『二重の罟を超えて進む中国型資本主義』ミネルヴァ書房

④現代日本についての課題

島村菜津（2013）『スローシティ』光文社新書

山岡淳一郎（2016）『ものづくり最後の砦 - 航空機クラスターに賭ける - 』日本実業出版社

⑤古典

4.その他

単位認定等について

前期博士課程の分野専門演習科目の研究報告書：8000字以上

後期博士課程の分野専門演習科目の研究報告書：12000字以上

提出時期は2月初旬，詳しい日程と提出先は1月初旬，注意ください。